

量子力学3 第17回 議義まとめ

201810855 佐藤 綾香

回転操作の作る群
連続群としての回転

$$v \rightarrow v' = Rv$$

$$\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} x' \\ y' \\ z' \end{pmatrix}$$

ここで、行列 R (回転行列) は

$$R \in SO(3)$$

$$\hat{R}R = E_3$$

$$\det R = 1$$

$$\begin{cases} x^2 + y^2 + z^2 = \hat{v}v \\ x'^2 + y'^2 + z'^2 = \hat{v}'v' = \hat{v}\hat{R}Rv \end{cases}$$

$$|v'| = |v| \rightarrow \text{回転は長さを変えない}$$

回転軸の存在

$$\det(R - E_3) = \det(\hat{R} - E_3) = \det(R^{-1} - E_3)$$

$$= \det R^{-1} \det(E_3 - R)$$

$$= \det R^{-1} \det(E_3 - R)$$

$$= (-1)^3 \det(R - E_3)$$

$$= -\det(R - E_3)$$

$$\begin{cases} \det R = 1 \\ \det R^{-1} = 1 \\ \det(aA) = a^n \det A \end{cases}$$

よって、 $\det(R - E_3) = 0$ であり $\rightarrow \det R$ が固有値 1 をもつ。

$$Rv = 1v = v$$

つまり、 v 上の点 (は回転で不変、つまり v は回転軸となる。
以後回転を、回転軸 v と回転角 α で、 $R_\alpha(v)$ と表現する。

まず、 v_1 軸周りに α 回転、続いて、 v_2 軸周りに β 回転する。

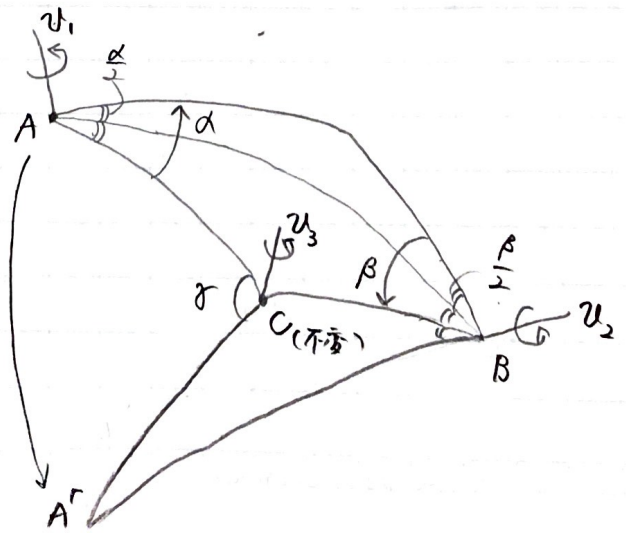
$R = R_\beta(v_2)R_\alpha(v_1)$ とすれば、

$$\hat{R}R = \hat{R}_\alpha \hat{R}_\beta R_\beta R_\alpha = E_3$$

$$\det R = \det R_\beta \det R_\alpha = 1$$

R も回転
回転軸と回転角は v_3 と γ

回転操作は群をつくる！ 回転群



オイラー角による回転の表示

回転を回転軸 \hat{u} と回転角 $|\alpha|$ で $R(\alpha)$ と表せば、回転角は回転により不変だから、 $R(\alpha)\hat{u} = \hat{u}$ 。
よって、任意の回転 Q に対して、

$$QR(\alpha)Q^{-1}Q\hat{u} = Q\hat{u} \quad \left(\begin{array}{l} QR\hat{u} = Q\hat{u} \\ \hat{Q} = Q \end{array} \right)$$

よって、 $R' = QRQ^{-1}$ はベクトル $Q\hat{u}$ を動かさない。つまり、 R' の軸は $Q\hat{u}$ である。

また、 QRQ^{-1} は基底変換とも呼ぶことができるので、 R と R' の回転角は等しい。

$$\underline{R'} = \underline{QRQ^{-1}} \quad Q: R \text{ の回転軸} \rightarrow R' \text{ の回転軸} \text{ に移す回転}$$

同じ class (類) に属する。

オイラー角 α, β, γ による回転の表示

1. z 軸周りの角度 α の回転 $R_\alpha(z)$. 座標軸は $(x_1, y_1, z_1=z)$ \wedge

2. 新しい y_1 軸周りの角度 β の回転 $R_\beta(y_1)$. $(x_2, y_2=y_1, z_2)$ \wedge

$$R_\beta(y_1) = R_\alpha(z) R_\beta(y_1) [R_\alpha(z)]^{-1} \dots *1$$

3. さらに新しい z_2 軸周りの角度 γ の回転 $R_\gamma(z_2)$

$$R_\gamma(z_2) = R_\beta(y_1) R_\gamma(z_2) [R_\beta(y_1)]^{-1} \dots *2$$

$$\begin{aligned} R(\alpha, \beta, \gamma) &= R_\gamma(z_2) R_\beta(y_1) R_\alpha(z) \\ &= R_\gamma(z_2) \cdot R_\beta(y_1) \cdot R_\alpha(z) \\ &= [R_\beta(y_1) R_\gamma(z_2) [R_\beta(y_1)]^{-1}] \cdot R_\beta(y_1) \cdot R_\alpha(z) \quad (\because *2) \\ &= R_\beta(y_1) R_\gamma(z_2) \cdot R_\alpha(z) \quad z_1=z \\ &= R_\alpha(z) R_\beta(y_1) [R_\alpha(z)]^{-1} \cdot R_\gamma(z_2) R_\alpha(z) \quad (\because *1) \\ &= R_\alpha(z) R_\beta(y_1) R_\gamma(z_2) \end{aligned}$$

\Leftarrow すべて元の軸まわりの回転

回転操作のユニタリ演算子

\hat{n} 軸周りの角度 θ の回転 $R_\theta(\hat{n})$ に対応するユニタリ変換、角運動量演算子を用いて、

$$R_\theta(\hat{n}) = e^{-i\hat{n}\theta}$$

とかける。これから、オイラー角による一般の回転(に対応するユニタリ変換)を次のようにかく、

$$R(\alpha, \beta, \gamma) = e^{-iJ_z\alpha} e^{-iJ_y\beta} e^{-iJ_z\gamma} \quad (\hbar=1)$$

これらの回転操作は群を作り、それぞれが連続なパラメータ α, β, γ により決まる。このように群を連続群とよぶ。

$$\begin{aligned} [J_i, J_j] &= i\hbar \epsilon_{ijk} J_k \\ &= i \epsilon_{ijk} J_k \quad (\hbar=1) \end{aligned}$$